

中長期目標 (学校ビジョン)	○社会の中で自立して生活ができる力を育成する ○職業生活に必要な意欲と能力を育成する ○豊かな人間性、たくましく生きるための心と体を育成する	今年度の 重点目標	職業人としての基礎的な力の育成
			地域社会とつながりながら生きる力の育成
			働きやすい職場、一人一人が成長できる組織づくり

年 度 当 初					評 価 結 果 (9) 月	
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価改善方策
職業人としての 基礎的な力の育 成	○授業改善 ～「協働性」を高める～	○協働性を取り入れた学びへの意識が高まっている。しかし協働性の捉え方が一面的になっていたり、教科の目標設定がいまいちになっていたりすることから、さらなる授業改善が必要である。	○教職員が教科の目標を意識した授業改善が行われ、専門コースの特性（教科の目標）に応じた協働性を効果的にとり入れている。	○教科グループごとに授業づくりの研究会を設定し、目標達成のための授業になるように、PDCAサイクルで年間を通して授業改善に取り組む。 ○外部講師を招聘し、学習指導要領解説について理解を深めたり、授業研究会で協働性を取り入れた学習について検討を行ったりする。 ○教育検証プロジェクトに継続して取り組み、教職員で成果と課題について共有する。	○外部講師を招聘し、校内研究全体研修会を2回実施。専門教科の目標、協働性の捉え方を確認した。コースごとに学習指導要領と年間指導計画の関連を話し合い、意識が上がっている。11月に3回目の研究会を行う予定。 ○授業における協働性への取り組みは個々のものになっており全体として整理できていない。 ○教育検証プロジェクトは、	B ○学科と協力しながら、年間指導計画、学習計画の見直しを必要なコースで行いたい。 ○「協働性」をどのように取入れどのような効果があるかコース内で話し合い、検証をする。
	○キャリア発達を見据えた職業教育、進路指導の充実 ～自分を見つめる～	○「一般就労」に向けて、専門共通目標を設定し、日々の活動に取り組んでいるが、生徒及び教職員の意識は様々である。	○生徒及び教職員が、「一般就労」や「専門共通目標」の達成を意識しながら日々の実習に取り組んでいる。	○各コースの実態に応じた目標設定や振り返りの方法を検討する。 ○学科会やコース会等を活用して、指導方針、指導内容の共有と改善に取り組む。 ○コースチーフを中心とした効果的なコース運営を行う。	○「一般就労」への意識を高めるために、年度当初専門教科についての研修を実施した。研究・研修担当主催の研修会に参加したり、コース会で専門教科の目標や活動内容について検討したりと教職員が研修を進めている。 ○コース会を中心に各学年の学習状況について情報共有に努めたり、コースの実態に応じて専門共通目標の意識づけを行ったりしている。	B ○コースチーフを中心に、各学年の取り組みや課題について定期的に情報共有や検討を行い、授業改善に取り組む。教職員の専門教科におけるスキル向上をねらい、空き時間を利用した教職員間の担当コースの授業参観を継続する。 ○教職員が「一般就労」や「専門共通目標」を意識した学習活動を設定するとともに、他分掌と連携を図りながら生徒への指導を続ける。
		○自己理解が難しく、進路選択の見極めが不十分な生徒がいる。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業準備性が不十分なままに就職する生徒がいる。	○（1年生）自分の良さと課題を理解している。 ○（2年生）自分の適性をふまえて、進路を具体的に考えている。 ○（3年生）自分の適性をふまえて、進路を選んでいる。	○現場実習の学びが日々の学習や生活につながるように、学年団、学科部、進路部が連携して計画的に職業教育を実施する。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業準備性を高めるために、生徒、教職員に対して授業や研修、通信等で卒業後の生活に関する情報を発信する。	○現場実習では、学年団や学科部と進路部が連携すること、生徒の希望や適性に合った企業とのマッチングや課題の共通理解ができている。 ○その時期に必要な内容や、生徒、職員のニーズを受けて行事や研修を行っており、意識の向上に繋がっている。	B ○引き続き現場実習と授業のつながりを意識して、学年団や学科部と進路部とのより密な連携に努める。 ○生徒、職員の進路指導に対する意識を更に高めるために、引き続き行事や研修の内容について検討する必要がある。
	○生徒指導、生活指導 ～よりよい生活習慣、判断力をつける～	○「生徒心得」の学校ルールが十分に徹底されていない。 ○登下校時の駅でのマナー等で外部から指摘を受けることがある。	○社会の中の一員として挨拶、時間厳守、身だしなみ、交通マナー等を守って生活できる。	○「生徒心得」等のルールを守る重要性や意義を理解させるため、全学年間で統一した指導方針をLHRや朝の会、帰りの会を活用して随時指導する。 ○学期に1回の登下校指導や生徒会と連携した活動を設定する。	○生徒会執行部と連携し挨拶運動を行ったり、毎朝立ち番をしたりすることで、挨拶をする生徒が増えてきた。学期ごとにJRの下校指導をすることで、マナーを守って利用している姿が見られる。	B ○重点指導項目を設定し、教職員・生徒に周知し指導に当たった。 ○「生徒心得」を中心に、共通認識のもと生徒に説明し、全教職員で指導に当たった。
		○歯磨きが習慣となっている生徒がいる一方、習慣化されていない生徒もいる。 また、歯磨きの習慣は身に付いているが、方法が不十分な生徒が多く、口腔内の清潔が保たれていない生徒が多い。	○自分の歯と口の健康に関心を持ち、主体的に行動しようとする生徒が増える。	○委員会活動で啓発を行い、意識を高めたり理解を深めたりする。 ○関連教科等と連携を図りながら取扱っていく。	○検診時の学校歯科医の助言や家庭科等の学習、保健給食委員会の取り組み等を通じて、歯磨きの重要性や正しい方法を理解する等、歯と口の健康に関心を持ち始めている生徒がいる。	B ○引き続き、関連教科や学校歯科医と連携を図りながら取り組んでいく。 ○引き続き、委員会活動で定期的に啓発を行い、意識や理解を深める。
		○生徒同士が関わり合いながら目標に向かって取り組むことを通して、他者の意見や助言を聞くことや、授業で互いに勉強を教え合ったり話合ったり声をかけ合ったりする行動が見られるようになってきている。	○協働性を意識した活動を通して、考えを深めたり相手を尊重した態度を養ったりする。	○HRや学年集会などで、生徒が主体的に活動したり、生徒同士で活動したりする場面を設ける。 ○学年部と生徒指導主事とが連携し、基本的生活習慣や規律など、学級内で振り返る機会を設定する。 ○学年主任会で各学年の取り組みや実態を共通理解し、必要な学習内容について検討する機会を設ける。取組んだ内容について記録をまとめる。	○各学年で生徒主体の学年集会を企画・実施できた。また、学級、教科学習で協働性を意識した取組が増えており、生徒たちは自ら友達と一緒に力を合わせて取り組むことができつつある。生徒アンケートの結果より、肯定的な評価が多いが自己理解や他者理解に課題がみられた。職員アンケートでは、約9割の職員が生徒の変化を感じている。 ○学年主任会で、各学年の様子や取組みについて情報交換できた。記録については集会の記録等まとめるようにする。	B ○引き続き、協働性を意識した取組について声かけや共通理解をしていく。また、学習の定着を図るために理解度の確認を学習等に取り入れていくようにする。授業後の振り返りも大切に取組をする。 ○学部主事、学年主任、生徒指導主事の細やかな情報共有、連携を継続して行う。
		○寄宿舎生活チェック表では、実態と乖離した自己評価をしている舎生が半数以上おり、苦手な項目を把握できていない状況が見られる。	○苦手なことでも自分で折り合いをつけたり、職員に支援を依頼したりして上手く行動できている。	○生活チェック表を活用しながら苦手な項目についてはどのように折り合いをつけるかアドバイスしたり、必要な支援を一緒に考えたりする。	年度当初の舎生自己評価では、あまり考えることなく実態にそぐわない評価をつけていた舎生が多かったが、9月のチェックでは職員による評価と一致する舎生が多くなった。チェック表を基に面談等で話を続けた効果と思われる。	B ある程度適切な自己評価ができるようになったので、今後は苦手な項目についてどのように対処していくか、寄宿舎生活の中で場面をとらえて話をしたり、月に一回以上の面談を行うなど必要な支援を舎生とともに考えていく。
	○学校運営協議会の活用 ・地域連携・企業連携の充実	○昨年度、学校運営協議会を3回実施した。会議以外にも専門教科成果発表への参観により、より学校の様子を知っていただくとともに、生徒の励みとなった。また、地域と一体となった取組がコロナ前の状況に戻りつつある。	○幅広い分野から参加いただいた委員の方からの助言を受け、本校の魅力発信、地域と一体となった取組へとつなげていく。	○引き続き地域や企業の方の来校や地域に出かけての活動等、地域と関わる取組を進める。 ○地域との関わり、本校の魅力（生徒の活躍、取組の様子等）を積極的に発信する。	学校教育目標、特色ある取組、教育課程等について、パワーポイントで具体的に説明、授業参観を行った後、「本校の魅力をどう発信していくか」「地域と一体となった取組をさらにどう進めていくか」について協議し、助言をいただいた。地域に出かけての活動、来校者数は、昨年度と比較して大きく増加している。本校の魅力発信は、メディアを活用したり、県主催のイベントに積極的に参加したりしている。	B 引き続き、地域に出かけての活動、魅力発信を進めていく。学校運営協議会で助言された「就職、教育課程、進路」を本校のアピールポイントとして地域、中学校等にさらに発信していく。

様式 2		○昨年度は、企業を対象とした学校公開「企業参観日」を１１回実施した。 ○企業とのつながりを作ったり保ったりする工夫が必要である。	○年間を通して実習先の１０％以上の企業が新規開拓企業である。 ○企業参観日を年間１０回以上実施し、現場実習の受入れに繋がっている。	○関係機関との連携や企業情報データベースの活用を通して、積極的に企業新規開拓を行う。 ○企業参観日の案内を積極的に行う。 ○本校の取組や障がい者雇用について情報発信を行ったり、生徒とのマッチングに繋げるために企業のニーズを吸い上げたりする。 ○学校運営協議会において、就労の視点も含めて協議を行う。	○積極的に企業新規開拓を行い、第１回現場実習の新規開拓企業は34.9%と目標を上回った。 ○企業参観日を現在３回実施しており、企業のニーズを把握し、本校の取組や障がい者雇用についての情報発信ができています。	B	○就労促進セミナーを実施し、さらなる情報発信と啓発を行う。 ○企業との連携を進めるために、学校運営協議会で引き続き就労の視点を含めた情報共有や協議をする。
地域社会とつながりながら生きる力の育成	○自治的活動の推進 ～生徒が考え、社会をつくる～	○気持ちの乱れにより規範意識が低い生徒がいる。 ○自治的活動に関心を持ち、自主的に活動に取り組もうとする生徒は少ない。 ○自分なりの考えを持っている生徒や考えを広げたいと思っている生徒がいる。	○よりよい学校生活を築くために生徒が自発的に課題等を見出し、改善策を考えている。	○生徒会執行部を中心に生徒の意見を集約・整理・問題提起等する活動を通して、社会づくりの主体であることを実感させる。 ○生徒総会を年２回実施し、学校生活の課題等について話し合う場を設ける。	○学校生活を改善するための課題があまり出ていなかったように思える。 ○次年度に向けて学校生活をより良くするためにはどうしたらよいのかを執行部生徒が話し合う活動を取入れた。生徒が自主的に意見をすることができた。	B	○委員会から出てきた意見を生徒会執行部を中心に整理し、正しい手順で提案するといった活動を取入れる。
		○寄宿舎行事や活動ごとに実行委員を設け、企画・アイデアを出し合い、舎生主体で実施していけるように考えている。しかし、行事間が短いときは準備期間が短く、十分に検討を重ねる時間をもてず、指導者主導の企画や運営になることがある。	○舎生が琴海会の活動や行事の企画・運営に主体的に関わることができる。	○可能な限り早い時期から実行委員を設け、十分な準備期間の中で舎生が企画・運営できるようにする。また、舎生全員が係に所属し、琴海会の一員として関わっていけるよう複数の係を設定する。 ○引き続き、舎生が意見やアイデアを出し合える機会を多く設定する。	○琴海祭の二ヵ月前から実行委員会を結成し、舎生が主体的に企画から取組んでいるところである。実行委員以外の舎生も歓迎会と同様に係へ所属し、役を担い、行事の運営に関わっていく予定である。	B	目標を達成できるようにこれからも早い時期からの取組を意識し、舎生一人ひとりが主体的に取り組めるように定例の部屋会で行事の係含め個々の役割を確認していく。
		○大会参加ができるようになり、生徒たちが自主的に取り組むようになった。 ○パラスポーツ大会に参加する生徒が増えてきた。 ○部活動参加率が年々減少している。 ○参加できる大会やイベントは増えてきてはいるもののまだまだ少ない。	○生涯を通して、文化的体育的な活動をしようとする生徒が育っている。 ○地域の中で、運動や文化活動に参加できる環境が整っている。	○大会の情報をしっかり案内し、大会の様子を知らせていく。 ○退部する生徒について、転部できるように勧めていく。 ○顧問会を中心に、魅力ある部活動になるよう練習内容を検討する。	○昨年度よりも退部する生徒が減り、新しく加入する生徒も出てきた。所属していない生徒が陸上大会に出場する機会も増えた。 ○全職員で協力できる体制ができつつあり、部活動を楽しむにしている生徒が多くなってきた。	B	○取組の継続
	○啓発・広報活動の工夫 (保護者、地域住民、小中学校、企業に聞く)	○閲覧者に必要な情報が盛り込まれている学校ホームページやFacebookを随時更新し、YouTube等で学校の魅力発信に意識して取り組むことができた。 ○地域や学校への公開や広報活動を、来校者の現状に合わせて拡大することができた。	○Facebookや学校ホームページ、学校だより、YouTube等の様々な媒体で、地域や企業、入学を検討している生徒に対し、学校の啓発・広報活動が進められている。	○学校の魅力発信を意識して、閲覧者に必要な情報が盛り込まれている学校ホームページやFacebookを随時更新していく。 ○地域や学校への公開や広報活動を工夫していく。	校内の様子、校外学習の様子等を頻繁にFacebookや学校ホームページにアップし、学校の啓発・広報活動に努めている。学校紹介動画等の情報を適宜アップしたり、県内の小中学校等への案内に添付したりして広報活動をしている。	B	引き続き学校の魅力発信を意識して、閲覧者に必要な情報が盛り込まれている学校ホームページやFacebookを随時更新していく。 メディア等も活用して地域や学校への公開や広報活動を工夫していく。
		○体験入学希望者があまり増えない状況にある。 ○職業的・社会的自立を見据えた進路指導のあり方に課題を感じている学校が多いが、進路選択に向けた具体的な情報はなかなか伝わりきれていない。	○「琴の浦の教育」について発信したり、地域の関心や課題に応えたりするための工夫ができている。	○本校の教育により関心を持ってもらうだけでなく、地域の課題やニーズを吸い上げるための工夫もある。 ・将来像の見えやすい情報提供 ・事前アンケートの実施 ・オープンスクールの実施 ○県や地教委等と連携し、地域へのPR活動を実施する。	・地域の課題を把握するためのアンケートや、来校時をきっかけとした教育相談の実施。 ・本年度の地域支援活動計画について、県と情報共有及び周辺市町への紹介。 ・ワークショップや講演会講師として、啓発及び地域支援活動の実施。	B	○相談後の経過の開き取り、確認。 ○生徒の学びの姿や活動を通して、教育の成果を示せるような内容の工夫。
	働きやすい職場・成長できる組織作り	○校内研修・授業研究の工夫、 (人材育成をベースとした業務改善、時間外業務縮減等)	○時間外勤務の割合は減ってきているが、時間外業務の縮減が課題となっている。(R5年間360時間を超える職員が数名いる)	○引き続き、業務改善を図り、時間外業務を縮減する。(月45時間・年間360時間内)	○定期的に給与・勤怠システムを各自が確認し実態把握する時間を設定する。 ○継続して衛生委員会での時間外業務等の状況を確認し、年間を見通して業務の進め方を工夫し、時間外業務の縮減につなげる。 ○各行事・活動等の計画・実施について、ねらいや状況に応じて見直しを行い、業務改善を図る。	月45時間を超える職員は、5月は2名、6月は1名。7,8月は0。衛生委員会において、時間外業務や健康状況等の確認や検討を行い、必要に応じて声かけ等を行っている。	B
		支援部・教務部 (再掲)					
評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し							
【100%】 【80%程度】 【60%程度】 【40%程度】 【30%以下】							